

新約聖書の中の祈り①⑦

熊本聖書フォーラム

2021年2月14日

出典：MBS147 “Prayer in New Testament History” Arnold G. Fruchtenbaum, TH.M., PH.D.

「新約聖書の中の祈り」のアウトライン

1. イエスの祈り（22の事例）
2. 福音書における他の祈り（4の事例）
3. 使徒の働きにおける祈り（27の事例）
4. 書簡における祈り（23 + 2 = 25の事例）

本日は、書簡における祈り（第6～第10）

パウロが宛先の教会の信者たちのために祈った祈り

6番 悪に陥ることがないように P.1

Ⅱ コリ13：7

背景

- ギリシアの町コリント、パウロの第2次伝道旅行
- 使18：11 「1年6か月の間腰を据えて」
- 第3次伝道旅行の中で、手紙を出した。第一の手紙はエペソから、第二の手紙はマケドニアから

6番 悪に陥ることがないように P.1

私たち＝パウロとテモテ

二人がコリントの教会のために祈っている

祈りの内容：悪い行いの中に落ち込むことのないように

- ① 淫らな行い
- ② 信者間の争いを教会で扱わないで、法廷へ
- ③ 分派争い
- ④ 教会での無秩序な異言の祈りによる混乱
- ⑤ 死者の復活はないと言う

7 番-1 霊的成長を願う

P.2

エペソ1：16

背景

- ① 小アジア（現在のトルコ）の西側にあった町、パウロの第3次伝道旅行
- ② 使19：8～20 エペソでの活動は、2年を超えた
- ③ 第3次伝道旅行では帰還することなく、エルサレムに来たところで捕らえられた
- ④ カイサリアで収監2年、さらにローマに移送

7 番-1 霊的成長を願う

P.2

背景

- ⑤ ローマに収監されている中で、この手紙
 - エペソ6：20 鎖につながれながらも使節の務め
 - 使28：16 監視の兵士が付いてはいたが、一人で生活することを許された
 - 使28：30 自費で借りた家に住み、訪ねて来る人たちをみな迎えて、主イエスのことを教えた

7 番-2 霊的成長を願う

P.2

経緯 エペソ1：15

- エペソの教会の信者たち

イエスをメシアであると証言していた

「すべての聖徒」特にユダヤ人信者たちに対して
愛を抱いていた

- パウロ

このことを伝え聞いて、感謝の祈り

7 番-3.4 霊的成長を願う

P.2

- エペソ1：16

「祈るときには」

直訳「祈り（複数形）において」

パウロは、1回だけでなく、しばしば祈っていた

- エペソ1：17

祈りの宛て先・・・父なる神

7 番-5 霊的成長を願う

P.2

エペソ1：17～23

祈りの内容

- ① 17節 神を知るための知恵と啓示の御霊を、
あなたがたに与えてくださいますように
= 聖書を読み、理解するために
聖霊の助けが与えられますように

7 番-5 霊的成長を願う

P.3

- ② 18～19節 あなたがたの心の目がはっきり見える
ようになって、○○を知ることができますように
霊的な目が開かれて、
霊的な知識を得ることができますように
神の計画を理解し、自分たちの将来に
何が起きるのかを、もっとよく知るようになる
これは、「**霊的に成長する**」ことの一面

7 番-6 霊的成長を願う

P. 3

霊的な知識の内容

- ① 18節 神の召しによって与えられる望み
- ② 18節 聖徒たちが受け継ぐものの栄光
- ③ 19節 信じる者に働く神のすぐれた力
- ④ 20～21節 キリストの復活と昇天、現在の地位
- ⑤ 22～23節 からだの奥義、内住のメシアの奥義

8 番-1 霊的成長と神を知ること P. 3

エペソ3：14～15 天と地にあるすべての家族の、**家族パトリア**という名の元である**御父パテラ**の前に祈ります

文脈 (2：11～3：13) **からだの奥義**

- ① 異邦人は、かつて神の祝福の外、今やイエスにあって、ユダヤ人と共に、共同の体に属する
- ② 共同の体＝目に見えない教会、頭はキリスト
- ③ **異邦人信者がユダヤ人信者と共に、一つのからだに属すること、そのからだとはキリストのからだである**

8 番-2 霊的成長と神を知ること P.4

エペソ3：14～15

神はユダヤ人だけの神ではない。異邦人もイエスにあって、「私たちの父よ」と呼ぶことができる

- ① 祈りの姿勢：膝をかがめて
- ② 祈りの宛先：父なる神

8 番-3 霊的成長と神を知ること P.4

エペソ3：16～19 祈りの内容

- ① 父なる神があなたがたに与えてくださいますように
- ② (その手段は)
 - 父の栄光の豊かさに応じて
 - (神の) 力によって

8番-3 靈的成長と神を知ること P.4

エペソ3：16～19 祈りの内容

③ (何を与えてくださるのか 5つ)

- 聖靈の内住において強くされること
- 内住のキリストを認識できること
- 愛に根差されて強められ、聖徒たちと共に
神の真理を理解すること

8番-3 靈的成長と神を知ること P.4

- グノーシス (知識・科学) をはるかに超えたキリストの愛を知ること
- 神の満ち満ちたものすべてによって、満たされること

参照 コロ2：9～10

キリストのうちには、神の満ち満ちたご性質が形をとって宿っています。あなたがたは、キリストにあって満たされているのです。

9 番 宣教活動支援信者との交わり P. 4

ピリピ1：4～5

1. 4：15～16 ピリピの教会は、パウロを支援した
2. 5節 福音を伝えることにともに携わってきた
3. パウロは、いつも感謝と喜びをもって祈った
4. 祈りの内容
 - パウロと信者たちの間の交わりが保たれますように
 - 福音宣教が前進しますように

10番-1 神の栄光

P. 5

ピリピ1：9～10a 2つの祈りのうちの第一

- ① あなたがたの愛が、いよいよ豊かになるように
- ② 「完全な知識とすべての識別力にあって」
- ③ **【補足】** =キリストにあって I コリ1：24、30、
コロ2：3「このキリストのうちに、知恵と知識の
宝がすべて隠されています」
- ④ 愛が豊かになる→大切なことを見分けられる

10番-2 神の栄光

P. 5

ピリピ1：10 b～11 2つの祈りのうちの第二

- ① あなたがたが、純真で非難されることのない者となるように
- ② 【補足】 そのための時間的順序
 - ・まず、イエスによって与えられる義の実に満たされる
 - ・そうすると、キリストの日に備えて、純真で非難されることのない者となる
 - ・そのことは、神の栄光と称賛に至る

10番-2 神の栄光

P. 5

ピリピ1：10 b～11 2つの祈りのうちの第二

- ③ 義の実は、人が自分の行いで得るものではない。信仰によりイエス・キリストから与えられるものである。ゆえに、その人が称賛されるのではなく、**神の栄光**となる

10番-2 神の栄光

P. 5-6

④ 【補足】 「非難される」 について

- 信者を非難するのは、サタンである（黙12：10）
- しかし、そこには、キリストがおられ、
私たちが信者を弁護してくださっている
- ヘブ4：14～16、7：25
- ロマ8：34、I テモ2：5

10番-2 神の栄光

P. 6

【補足】 「非難される」 について

- 信者がなすべきこと

罪を犯したことに気づいたら、それを神の前に
言い表すこと（I ヨハ1：9）

→気づいていない罪も含めて、すべての不義から
きよめられる = サタンは信者を訴える根拠を失う

10番-2 神の栄光

P. 6

⑤ 【補足】「キリストの日」について

- キリストの**再臨**のときを指す
- この文脈では、特に、教会の信者たちを迎えに来る**携挙**のときを指す
- よく似た用語に「**主の日**」がある。こちらは、大患難期を指すので、混同しないように注意

参考資料 「キリストの日」

P.6～8

1. ピリピ人への手紙 3か所「キリストの日」
2. キリストの再臨は2回に分けて
3. 再臨1回目・・・教会の信者たちを天に迎えるために（携挙）

携挙に関する6つのポイント

携挙に関する 6 つのポイント P.6~8

1. イエスが弟子たちに約束した
2. 主の日（大患難期）の前に起きる
3. キリストにある死者たちを連れて来られる
4. 地上にいる信者たちは変換される
5. 携挙はいつでも起こり得る
6. 携挙のあとに続くこと